

キャラクター名
ファイブ (ハブ)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	UGNエージェント
	キュマイラ					
オプション			年齢	見た目26歳	性別	男
覚醒	忘却	衝動	解放	初期侵食率	40 %	
出自	転生体	経験	過酷な環境	邂逅	夢の中	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	41
肉体	6	1	1	2		10	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	0	0	1			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1	1	調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	10r+11	0	23		素手攻撃力-5
	白兵	10r+11	0	32		飛礫攻撃力4
80	白兵	10r+11	0	43		素手-5
	白兵	10r+11	0	52		飛礫攻撃力4

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN	
コネ: 情報屋	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
屍人	P	N		
ファイブ	P 信頼	N 隔意		
守風	P 庇護	N 脅威		
冤罪?事件	P 好奇心	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	基+5	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: EA134、衝動判定ダイス+Lv								
オリジン:ヒューマン	5	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: EA134、そのシーンの間エフェクト使用判定のあらゆる達成値+Lv								
コンセントレイト:キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv (下限7)								
獣の力	7	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: EA58、白兵の攻撃力+ [Lv×2] する								
獣王の力	1	3	メジャー	武器	-	対決	リミット	
効果: BC60、獣の力と使用。効果を [Lv×4] に変更。								
飛礫	2	2	メジャー	20m	単体	対決	-	
効果: EA60、射程20m、攻撃力4、同エンゲージ不可								
増腕	2	2	メジャー	武器	範囲(選択)	対決	ピュア	
効果: EA62、対象を範囲(選択)に変更する。								
フルパワーアタック	5	4	セットアップ	至近	自身	自動	80	
効果: EA61、そのラウンド中の攻撃力+[Lv×5]、行動値が0になる。								
巨獣の爪牙	1	2d10	マイナー	至近	自身	自動	120	
効果: EA36、インシリアチブにメインプロセスを行う。そのメインプロセスはメジャーを2回行う。白兵攻撃のみ。								
獣の王	1	4	メジャー	武器	単体	対決	100	
効果: EA61、対象はリアクション不可								
メモリー: てんごくくん	1							
効果: 感情:愛								
鋭敏感覚	1	-	メジャー	-	-	自動	-	
効果: EA63、5感が鋭くなる								
獣の直感	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: EA63、嫌な予感を察知								

一人称: おれ 二人称: 君、お前
 口調: 目上の人には敬語、同い年くらいの人には~だよ、~だね。~なの。とか優しい感じの言葉使い。
 性格: 人間不信のお人好し。押しに弱く気も弱い。情緒が不安定でよくおかしくなる発作がでる。

「嫌な予感」というものをよく感じていた。
 何の皮でできているのかわからない古い本だとか、なんだか古い伝承のある村でやるお祭りだとか、顔のよすぎる知り合いだとか。怪異に対する無意識下の直感。第六感とでもいうのだろうか。
 そんな危険信号が告げたいようと、それにも勝る好奇心。探索せずにはいられないものだ。
 その好奇心は身を滅ぼし、俺はもう二度と正気には戻らないはずだった。

でも俺は再び目を覚ました。長い悪夢を見ていた感覚。いや、もしかするとその悪夢はいまだに続いているのかもしれない。そんなことを感じようと思えばいいとお腹はすく。
 疑問は尽きないが、生きていくために今日も働かないといけなない。
 レジカウンター越しの男性は、なぜだかとてもイライラしている様子だ。ふと俺と目が合う。自然と見下す形になってしまう。

なんだか「嫌な予感」がした。

人間のレネゲイドビーイング。細かく分けると直感や第六感などの感覚。「ファイブ」という精神的に死んだ一人の人間の中にレネゲイドが宿り、それがその宿主の記憶を読み取り再現した。自分がなにやらレネゲイドというものらしいことに気づいたが、どうしようもないのでバイトに行っている。やっぱりなんか事件に巻き込まれ、バイトもくびになって絶望していたところ小佐古支部の支部長、半田半蔵に話を聞いてもらいそのまま小佐古へ。